



障害者自立支援センターニュースレター

第18号 2010年 4月 発行

ぽ
た

満開の桜も、もう次の花にバトンタッチするかのようにはじまり始めていますね。今年は開花後、寒い日が多かったせいか“お花見”の期間が長かったようです。皆さんはどのように桜を楽しまれたのでしょうか？

「別れの3月、出会いの4月」と言いますが、新しい出会いをされた方もいらっしゃるでしょう。このPOTAでは、スタッフの廣瀬さんがカナダに行かれましたが、別れではなく、【POTAカナダ支部】の発足という形で、新しい拡がりつつながりをもたらされることとなり嬉しい限りです。

早速、廣瀬さんからの『カナダ便り』第一報をお届けします。 (馬場)

カナダ 便り

昨日無事にモントリオールに到着しました。
家族全員、完全に時差ぼけですが、夕方から早速街へ繰り出し散策してきました。

こちらは今日からイースターという祝日で、街はとっても賑やかです。
極寒のモントリオールを覚悟して行ったのですが、日中は20℃まで気温があがり半そで・短パン・ピーサンの人がほとんど。

生活スタイル（食べ物以外！）は日本とさほど変わらない感じですが、街の雰囲気などとてもクラシックで気に入っています。

また、写真などお送りできたらと思います。 (4月3日・廣瀬)



3月相談コーナーの報告 3月20日（土）午後2時～ 就労センター「街」にて

久しぶりに参加した方もあり、相談コーナー恒例の近況報告では、自己紹介も含め今の生活のことや、家族のこと、体調のことなど様々な話題があがりました。

この近況報告の中で、「生活保護費」を受給する暮らしにまつわる思いが語られておりましたので、まずこのことを参加者全員でさまざまな視点から話し合いました。生きるために利用する制度であること、安定した生活を送ることの大切さとともに、申請や受給する立場で感じる役所の対応の問題点も語られました。働くことと関連した意見も多く、その中で“（病気とのかねあい）働かない我慢”という言葉にもハッとさせられるものがありました。

また「薬の副作用」に悩むことが近況報告でありましたが、それにどう対処するかについて、意見や提案などが出されました。特に自分の服用した薬についての経験に基づく意見は貴重で、こうした当事者間での情報・意見交換が活発になることを期待したいと思いました。

なお、スタッフの廣瀬さんが、4月にはカナダへ移られるということで、赤ちゃんともども会場にお見えになりました。相談コーナー開始前の時間、スワンのパンをいただきながら廣瀬さんを囲む集いが急遽開かれました。ご主人の海外赴任に伴うことなのでしたが、このニュースに「カナダ便り」を折に触れて投稿下さるとのことでした。

参加者が多く、あっという間に時間が過ぎたように感じました。今後も皆さんで、活発な意見交換をしていけたらと思いました。 (浅海/市川)

情報アラカルト

ここでは就労支援および精神保健福祉に関連した情報を紹介しています。

統合失調症の病態に脳内炎症が関与 — 統合失調症の原因解明に進歩 —

<放医研ニュースより> 陽電子断層撮影 (PET) 装置を用いた統合失調症患者の大脳皮質の研究により、脳内の免疫系に関連するミクログリアの活性化の度合いが、症状や罹病期間と関連することを世界で初めて明らかにしました。

この結果は、脳内免疫系が統合失調症のような精神疾患においても関与している可能性を示すものであり、今後の統合失調症の原因解明や治療法の開発に貢献するものと期待されます。

(本研究は英国の精神神経薬理学専門誌のオンライン版に掲載。平成 22 年 3 月、独立行政法人放射線医学総合研究所)

精神医療の改革へ、医師・患者らが会議発足

精神科医と患者・家族の有志らが 1 日、精神保健医療の改革案を協議する「こころの健康政策構想会議」を発足させると発表した。東京都立松沢病院の岡崎祐士院長が座長を務め、第 1 回会議が 3 日、同病院で開かれる。

会議は患者・家族 1 2 人と医師、看護師、心理士、保健所職員ら計 5 7 人の委員で構成。統合失調症患者への薬の多剤大量投与や、長期入院が患者の社会復帰を妨げている現状を踏まえ、心理士らを加えたチーム医療や、医療チームが患者宅を訪問する体制など、海外で成功した施策の国内導入を検討。5 月末までに提言をまとめ、長妻厚生労働相に提出する。(2010 年 4 月 1 日 読売新聞)

心の病を絵本で紹介—動物主人公 親しみやすく 大村の精神科医 疾患別に5巻出版

長崎県大村市の精神科医宮田雄吾さん(41)らが、若い人もわかりやすい代表的な五つの精神疾患について、偏見を持たずに幼いころから理解を深めてもらおうと、疾患別に5巻の絵本を出版した。子どもたちに親しんでもらえるよう、いろいろな動物を主人公にするなど工夫を凝らしており、県内の全小学校約400校に寄贈した。

絵本は、宮田さんが厚生労働省の「こころの健康科学研究事業」を活用して制作した。うつ病が「あさおきられないニワトリ」、強迫性障害が「てあらいがとまらないアライグマ」、摂食障害が「ふとるのがこわいチーター」といったタイトルで、統合失調症、社交不安障害も含めた5種類の疾患を取り上げた。

物語は宮田さんが考え、作業療法士の北村友弘さん(35)らが絵を担当。動物を主人公にすることで、うつ病にかかったニワトリが自殺を考える場面

も「フライドチキンにでもなってしまおうかしら」などと表現し、「リアルな現象を柔らかく伝えられる」(宮田さん) 効果を狙ったという。



今年2月に第1巻を出版、3カ月で全5巻がそろった。県内の小学校のほか、本年度中に中学校にも寄贈する予定で一般の書店でも販売される。

宮田さんによると、精神疾患は75%の人が13歳から24歳の間に発症しているという研究もあるなど、医療関係者の間では早期の啓発・発見を求める声が高まっている。

宮田さんは「心の病を紹介する絵本は今までなく、病から回復できるんだとのメッセージを分かりやすく伝えたかった。精神疾患にかかった親が子どもに自分の病気を説明するのにも役立つ」と話している。

(2010年4月5日付 西日本新聞朝刊)

うつ病の方への就労支援 ～OT にできること～

【日時】 平成 22 年 5 月 22 日 (土) 13:30~16:30 (受付 13:00~)

【会場】 東京 YMCA 医療福祉専門学校 (東京都国立市富士見台 2-35-11)

【プログラム】

13:30~15:00 【うつ病の方への就労支援】(仮題)

NTT 東日本関東病院 岡崎 渉氏

15:00~15:30 【うつ病の方へのプログラム『ほっとステーション』の紹介】

大泉病院 馬場温子氏 齊藤 勝氏

15:30~16:30 質疑応答・情報交換

【定員】 30名

【参加費】 会員 2,000 円、非会員 3,000 円、当事者・ご家族 500 円

【お申し込み・お問い合わせ先】 pota-shien@hotmail.co.jp (POTA 就労支援事業部まで)

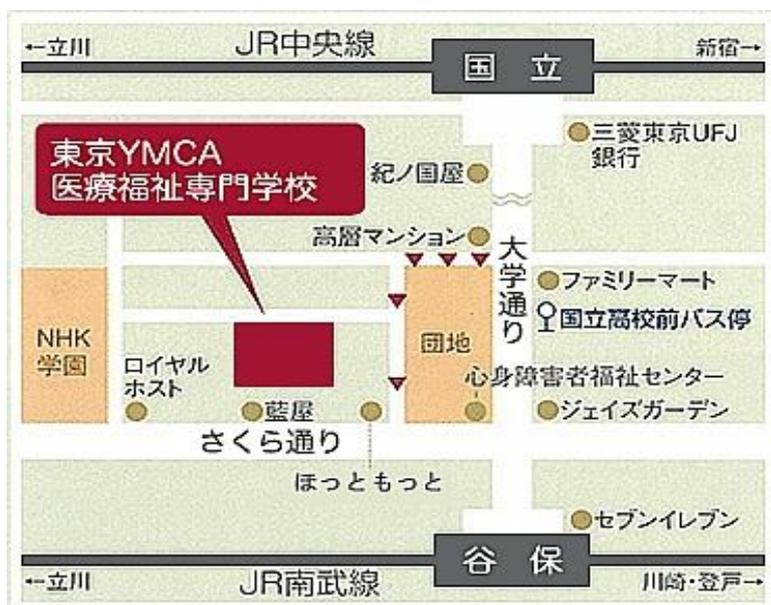
●申し込みの際には以下の記入をお願いします。

- ① 氏名
- ② 所属
- ③ 連絡先 (TEL、メールアドレス、または FAX)
- ④ POTA 会員の有無

※ 申し込み後、1 週間経っても申込み確認メールが届かない場合は下記までご連絡ください。

東京 YMCA 医療福祉専門学校 OT 学科 加藤 042-577-5521

※ 参加費は当日会場にてお支払いください。



- JR中央線「国立駅」 徒歩17分
バス利用の場合、南口バスロータリー
左側 3番(京王バス)、
4番(立川バス)乗り場、
いずれも3つ目「国立高校前」下車
徒歩3分
※本校最寄停留所アナウンスあり
- JR南武線「谷保駅」 徒歩8分

7月の相談コーナーのお知らせ

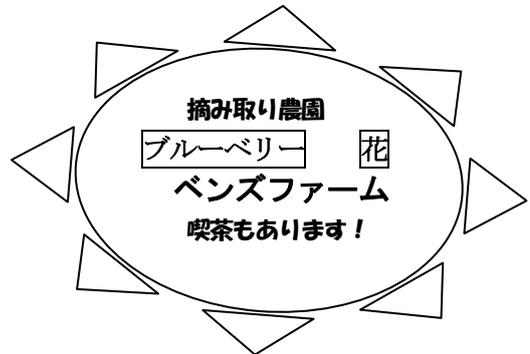
7月の相談コーナーは、以前から提案されていましたがハイキングを兼ねて、障害者雇用にも取り組んでおられるというブルーベリー農園「ベンズファーム」を訪問したいと思います。

太陽の恵み・畑からの贈り物を、思い切り
味わって、一緒に楽しみませんか！！

開催日、会場への順路など詳細は、ブルーベリーの
収穫時期に合わせて、後日お知らせします。

〈場所〉 〒187-0011 東京都小平市鈴木町1-464

<http://www.bensfarm.com/index.html>



POTA へのメール
→ 皆さんへ

【先週『検証！公設派遣村』という
シンポジウムに行ってきました】

昨年末、国と東京都で行った『公設派遣村』の実体はどうだったのか…という事を検証するというシンポジウムで、とても濃い内容で勉強になりました。私がピラを配っている一方で、様々な分野の人達が悪戦苦闘していたり、そしてなによりも、当事者の人達が一生懸命だった事。

当事者の方達は、さまざまな事情を抱えており、所持金もなく、何時間もかけてようやく辿り着いた人もいました。若い人達（野宿の人達）も多く来られていて、中には児童施設で育ち、施設を出てからは派遣で働いて派遣切りにあい、野宿生活に追いこまれてしまった人達も多かったようです。しかし今年の1月頃『公設派遣村』について、テレビや新聞の報道では『無断外泊200名』とか『2万円を持って逃亡』、飲酒事件など当事者をバッシングするような続報が流れました。利用者の不祥事も確かにあったようですが、それに対して誇張もしくは誤った情報が多く、生活再建に真剣に努力する人達の心を深く傷つけたり、その報道のせいでアパート契約が駄目になるなどの被害もあったようです。悪い情報ばかり流されて、本当の実体が視聴者には届かなかつたり…これでは、当事者と視聴者の間をさらに分断し『偏見』が強まるばかりです。

でも、シンポジウムで感じた事は、当事者の人達は一生懸命『生き抜こう』と思っている『一人の人間として人間らしく生きたい』と思っているのだと感じました。 (宮本)

※いつも相談コーナーに参加されている宮本さんは、今次の暮らしの拠り所探しの日々。そんなある日、ふとしたきっかけでホームレスの人たちを支援する活動に出会いました。その縁でこのシンポジウムを知り参加され感想を寄せて下さいました。『生き抜こう』『一人の人間として人間らしく生きたい』これは宮本さんご自身の今の思いに通じることでもあることでしょうか。皆さんにもお読みいただきたいということで、掲載させていただきました。(編集部)

POTA のホームページ

<http://www.npota.com/>

精神科作業療法に関する活動報告や研修案内の他、就労支援事業部のページもあります。就労支援事業部のページでは、まだニュースレターを掲載するのみですが、今後はホームページやブログを通じた情報発信や相談事業も行っていけたらと思っています。

また、POTA 就労支援事業部では連絡窓口としてメールアドレスを活用しています。

pota-shien@hotmail.co.jp

発送元：NPO 法人 POTA 就労支援事業部